



令和3年度 学校経営方針～静狩小学校の教育

I 令和3年度 学校経営の基底

1 学校経営の基底①

～目指す学校像と学校課題～

【目指す学校像】

- 一人一人のよさを引き出す学校
- 温かな人間関係であふれる学校
- 家庭や地域から信頼される学校



(1) 学校課題①『閉校に向けた学校運営の推進』

本校は、明治35年に開校し、創立119年目を迎える歴史と伝統のある学校である。歴任教職員はもとより、保護者、地域住民が一体となり「自主独立」の精神のもと、「地域の学校」として歩みを続け、地域との連携を図った創意ある教育活動を推進し、その実践は高く評価されてきた。

昭和58年度より一部複式の5学級編制となり、平成9年度からは完全複式3学級編制となった。平成17年度からは現在のように児童数が10名以下の状況が続き、養護教諭や事務職員が未配置となった。平成30年度には欠学年を含む複式2学級編制の規模となり教頭も未配置となった。令和2年度から児童数は5名であり、はじめて4・5年の単級複式学級編制となった。入学予定者もなく学校存続が難しいことから家庭、地域の総意のもと令和3年度をもって119年の歴史に幕を下ろすことになった。

今年度は閉校に向けた記念事業や付随する業務等の組織的な運営と統廃合に向けた様々な業務等の運営が大きなミッションである。長万部町教育委員会の指導・助言のもと関係機関、地域、家庭と連携を深めながら、確実に業務を推進していく。

(2) 学校課題②『円滑な統廃合に向けた指導の充実』

令和3年度限りで閉校となり、6年生3名は卒業し中学校へ進学し、5年生2名は長万部小学校へ編入学することになる。そのため、児童一人一人が円滑に新たな環境へ適応できるようにすること、また心理的な不安を少しでも解消できるように配慮していくことが求められている。

そのためには、新たな環境へもしっかりと順応できる能力や自らのよさをしっかりと認識し何事にも自信をもって取り組める原動力ともなる自己肯定感を高めるような教育活動を推進していくことが肝要である。さらに、学年の発達段階に応じた身に付けさせなければならない資質・能力の確実な育成も当然求められる。

今年度は学校統廃合に係る加配教員が配置されたことにより、より個に応じた極め細やかな指導が可能となる。また「GIGAスクール構想」により新たに整備されたICT機器（1人1台端末）などの効果的な活用により、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、確実な資質・能力の育成に努めるとともに達成感や成就感を味わわせていく中で自己肯定感を高める指導の充実に努める。

2 学校経営の基底② ～目指す子ども像と教員像～

【目指す子ども像】

- 自分のよさや可能性を生かし進んで学ぶ子ども
自己評価能力、言語能力、情報活用能力、プログラミング的思考
問題発見解決能力（探究力）、思考力・判断力・表現力（活用力）
- 相手意識をもち多様性を認め互いに支え合う子ども
人権意識、思いやり、感謝、礼儀、信頼、相互理解、寛容
公正公平、社会正義や規範意識（倫理観）、情報モラル
生命尊重、自然愛護、環境保全、伝統文化の尊重
- 強くしなやかな心と体を意識して鍛える子ども
健康安全、体力向上、危機回避力、安全意識、栄養教育
- 決めたことを丁寧に最後までやり抜く子ども
自主性、主体性、自律性（セルフコントロール）
自立心、向上心、忍耐力、継続性、責任感

【目指す教員像】

- 強い使命感・倫理観と子どもへの深い教育的愛情を常に持ち続ける教員
（使命感・責任感・倫理観）
 - ・教育公務員として遵守すべき法令、服務、職務を理解している教員
（教育的愛情/コーチング）
 - ・子ども一人一人の良さや可能性に目を向け、伸ばそうとする教員
（教職に対する強い情熱・人権意識）
 - ・教職への誇りをもち、人権意識に基づき子どもを尊重する姿勢をもった教員
- 教育の専門家として実践力や専門性の向上に主体的に取り組む教員
（児童理解力・共感力）
 - ・子ども一人一人の背景や環境を含めて的確に子どもをとらえる教員
（学級経営力）
 - ・子ども同士のコミュニケーションを大切に望ましい集団をつくりあげる教員
（授業力）
 - ・ねらいを明確にした授業を展開し、児童の主体的な学びを引き出せる教員
- 家庭・地域等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員
（経営参画能力）
 - ・積極的に学校経営に参画し、組織的・協働的に推進できる教員
（コミュニケーション能力）
 - ・相手の考えを尊重しながら適切な意思疎通ができる教員

II 令和3年度 学校教育目標・重点教育目標

1 学校教育目標

● **よさを生かし、進んで学ぶ子** (知)

・自分のよさや可能性生かし、見通しをもって進んで学ぶ子の育成

● **豊かな心をもち、支え合う子** (徳)

・多様性を認め、一人一人を大切にし、互いに認め合い支え合う子の育成

● **強い心と体を目指し、きたえる子** (体)

・強くしなやかな心と体を意識し、進んで体をきたえる子の育成

知・徳・体の基盤

強い意志・根気

● **最後までねばり強くやりぬく子** (意)

【基盤となる身に付けておきたい力】

- 自分を大切にする力
- 人を大切にする力
- チャレンジする力
- 我慢する力
- 誰に対しても分け隔てなく接する力

「自立」 「共生」

【基盤となる5つの当たり前】

- ①ありがとうをちゃんとと言える子
- ②いのちを大切にする子
- ③うんどうを続ける子
- ④えがおであいさつする子
- ⑤おもやいりの心でやさしい子

2 重点教育目標

● **よさを生かし、進んで学ぶ子の育成** (知)

- 学ぶ内容・学んだ内容のよさ
- 共に学びに向かう仲間のよさ
- 自分の可能性や持ち味のよさ
- 自分らしい学び方のよさ
- 自分らしい考え方のよさ
- 地域の人・もの・ことよさ

- 見通しをもって主体的に学ぶ
- 目標をもって主体的に学ぶ
- 学ぶ意義を理解して主体的に学ぶ
- 振り返りを生かして主体的に学ぶ
- 多様な考えを受け入れ主体的に学ぶ
- 地域の人・もの・ことから主体的に学ぶ

Ⅲ 令和3年度 学校経営上の重点

1 学校教育目標・重点教育目標の具現化の推進と協働体制の確立

- (1) 教育目標・重点教育目標の共通理解と日常実践における意識化
- (2) 教職員一人一人の個性や能力を生かし、経営参画意識を高める経営の推進
- (3) RV→PDCA サイクルを重視した教育目標具現化へ向けた重点取組事項の推進
- (4) 学校評価・保護者アンケート・児童アンケート集約結果を生かした学校課題の明確化と改善
- (5) 報告・連絡・相談・確認の徹底による業務の組織的な遂行（服規律の保持徹底）

2 社会に開かれた教育課程の実施とへき地複式教育の特性を生かした指導の充実

- (1) 学習指導要領を踏まえた創意と調和のあるカリキュラム・マネジメントの推進
- (2) 地域との連携を図ったふるさとで学ぶ教育課程の推進
(地域で学ぶ・地域を学ぶ・地域の人から学ぶ・地域と共に学ぶ・地域に奉仕する)
- (3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程及び指導方法の工夫と改善

3 自立と共生を目指す豊かな心をはぐくむ教育活動の創造と推進

- (1) 多様性を認め、支え合い、子ども相互の共感的な人間関係をはぐくむ学級経営の充実
- (2) 道徳教育の充実と道徳的価値に向き合い、多面的・多角的に考える指導方法の工夫
- (3) 伝統と文化を継承し、郷土理解を深め、ふるさとへの愛着と誇りをはぐくむ教育活動の推進

4 専門職としての教員の資質向上を図る校内研修の充実

- (1) 授業改善に直結し、重点教育目標の達成に向かう開かれた校内授業研究の推進
- (2) 現代的な諸課題への対応等を共に学び合い、深め合う実践的な校内研修の推進

5 家庭、地域、関係機関と連携した危機管理と危機対応の徹底

- (1) 危険を回避し安全に行動する力をはぐくむ安全指導、防災・防犯教育の推進
- (2) 家庭、地域、関係機関と連携した安全教室、防災・防犯訓練の推進
- (3) 家庭、地域、関係機関と連携した感染症対策の推進

6 接続を意識した異校種・同校種間連携の推進

- (1) 長万部小、中、高等との連携を重視した交流機会の充実
- (2) 長万部町教育連携会、町教育研究所等の関係機関との連携を図った取組の充実

7 学校における働き方改革の推進

- (1) 効果的・効率的な業務内容の適正化を目指した業務改善の推進
- (2) 客観的な勤務時間の管理に基づいた自らの働き方の改善（定時退勤日の拡充）

8 閉校（統廃合）に向けた各種業務の推進

- (1) 家庭、地域及び関係機関と連携を図った記念事業等の推進（閉校記念事業実行委員会）
- (2) 統廃合に向けた交流学习等の充実（長万部小学校との合同行事、交流学习）

IV 令和3年度 教育活動における指導上の重点

【重点取組事項1】 「よさを生かし、主体的に学ぶ子の育成」

(1) 児童の主体的な学びを目指した日常的な授業改善

- ①学習過程の質的改善を図る。「課題設定・見通し」「対話・協働」「まとめ・振り返り」の工夫
- ②児童の主体的な学びの実現を目指した問題解決的な学習、探究的な学習を重視する。
- ③教科書の効果的な活用を図る。(課題設定・見通し・自力解決・まとめ等の場面で)
- ④ICTの効果的な活用と情報活用能力の育成を目指す。(情報モラルも併せて指導)

(2) 学力調査結果等を生かした基礎・基本の確実な習得

- ①全国学力学習状況調査及び標準学力調査結果から課題を明確にし、改善を図る。
- ②課題が見られた学習内容の含まれる単元を重点単元とし確実な定着を図る。
- ③学習内容の定着度をもとに個に応じた指導の充実を図る。(チャレンジテストの有効活用)
- ④基礎・基本の定着のために繰り返し指導を工夫する。(朝学習と宿題との連携)
- ⑤言語能力の育成を目指した言語活動の充実を図る。(全教科、全領域で)

(3) 読書習慣も含めた学習習慣の確実な定着

- ①授業との連動を図った家庭学習の内容を工夫し、家庭での学習習慣を定着を図る。
- ②主体的な学習習慣のために予習型家庭学習を推進する。(復習70%以内、予習30%以上)
- ③読書発表会の充実と読書の記録の見える化による読書習慣の定着を図る。
- ④家庭との連携を図った取組を工夫する。(家庭学習強調習慣、生活リズムチェックシート)

<育成すべき資質・能力>

- 生きて働く知識・技能の習得
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養

【重点取組事項2】 「豊かな心を持ち、思いやりのある子の育成」

(1) 共感的な児童理解のもとに児童の自己肯定感を高める指導の推進

- ①一人一人のよさや成長のために「認める」「ほめる」「励ます」指導・支援を重視する。
- ②自分の取組ぶりを振り返る「キャリアパスポート」を効果的に活用する。
- ③児童アンケートや面談を通して個に応じた指導・支援につなげる。

(2) 共生社会の理念に基づいた学校・学級経営の推進

- ①子ども相互が支え合う風土と互いに切磋琢磨し合える望ましい人間関係を醸成する。
- ②自律性や社会性を養い規律ある集団行動の定着を図る。
- ③自分の言動を見つめ直すために定期的な振り返りを重視する。
- ④いじめゼロプロジェクトの推進(いじめ根絶宣言)

(3) 豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進

- ①自己の生き方を考える道徳教育の充実を図る。「考える」「振り返る」の重視
- ②本物に触れる豊かな体験活動の充実を図る。(農園活動、地域探究活動、地域交流活動)
- ③道徳アンケートの活用により、重点指導事項(内容)の明確化を図る。

【重点取組事項3】 「強い心と体を目指し、進んできたえる子の育成」

(1) 自己の健康や体力の関心を高める保健体育の推進

- ①課題である持久力向上に向けた朝運動の継続と工夫を図る。(90秒間縄跳び、3分間走)
- ②新体力テストの課題がある種目を複数回実施し、取組の検証を図る。(20mシャトルラン)
- ③体育の授業の準備運動として新体力テストの種目を取り入れ、体力の向上を図る。
- ④体力向上への意識高揚のため「どんさんこ元気アップチャレンジ」を積極的に活用する。

(2) 望ましい食習慣の定着を目指す食育の推進

- ①栄養教諭と連携した食育指導の充実を図る。(家庭科との連携)
- ②食事のマナーや栄養バランスを考えた食事のとり方を身に付けさせる。

(3) 健康を意識した望ましい生活習慣の確実な定着

- ①メディア時間を自分でコントロールできるように家庭と連携して働きかける。
- ②生活リズムチェックシートの効果的な活用を図る。(目標設定と振り返り)

【重点取組事項4】 「地域との連携を図った教育活動の充実」

(1) 郷土への愛着をはぐくむふるさと学習の推進

- ①地域をテーマにした探究的な学習の充実を図る。(総合的な学習の時間、収穫祭)
- ②地域行事への積極的な参加と表現活動の充実を図る。(静狩神社例大祭、地域運動会など)

(2) 相手意識を高める地域の人々との交流活動の充実

- ①高齢者福祉施設「慈恵園」への訪問交流を通して思いやりの気持ちをもたせる。
- ②パークゴルフ等を通じた地域の人々との交流を通して親近感や感謝の気持ちをもたせる。

(3) 地域と連携を図った安全・防災教育の推進

- ①地域や関係機関と連携した交通安全教室、避難訓練の充実を図る。
- ②安全意識を高め、危機対応能力を養う防犯、防災教室の充実を図る。
- ③インターネットに係る正しい知識の習熟と情報モラル教育の充実を図る。
- ④家庭、地域、関係機関と連携した感染症対策の徹底を図る。(学校から積極的な発信)

【支えとなる取組事項】

(1) よりよく生きるための道徳性の養う道徳指導の充実

- ①重点内容項目を明確にした全体計画、指導計画の改善を図る。
- ②道徳の授業を保護者や地域住民に公開し、改善に生かす。

(2) 自己肯定感を高め自己指導能力をはぐくむ生徒指導の充実

- ①自己存在感を高めるような指導と自己決定の場を工夫する。
- ②支持的風土に満ちた共感的な人間関係の構築、維持に努める。

(3) 学校生活の充実と向上のために自発的に取り組む特別活動の充実

- ①自己の目標設定とともに成長や変容を実感できる取組を工夫する。
- ②集団として高まりや感動のある学校行事や児童会活動の展開に努める。

(4) 円滑な接続のための小中高及び関係機関との連携強化

- ①長万部小学校との交流活動の充実に努める。(宿泊学習、修学旅行等の合同行事、交流学習)
- ②小中校連携協議会、町教育研究所、学校運営協議会(CS)等の取組の充実を図る。

V 令和3年度 成果目標と目標に向けた取組

【重点取組事項1】 「よさを生かし、主体的に学ぶ子の育成」

重点取組事項1	よさを生かし、主体的に学ぶ子の育成	
成果目標	①全国学力・学習状況調査 正答率 全国平均以上（6年） ②標準学力調査 正答率 全国平均以上（5年、6年）	
項目	達成基準	具体的な方策
①基礎学力の確実な定着	○単元テスト（国語・算数） 平均80点以上	○重点単元の設定 （課題のある単元の時数増など） ○チャレンジテストの有効活用 ○個に応じた指導の充実 ○繰り返し指導の充実 （朝学習と宿題との連動） ○単元テストの再テストの実施 ○言語活動の充実（全教科、領域で）
②授業力の向上 【最重点】	○児童アンケート 「授業がよく分かる」（国・算） 90%以上 ○保護者アンケート 「子供は授業が分かりやすい」 90%以上	○学習過程の質的改善 （課題設定、見通しの工夫） （対話的・協働的な学習の充実） （まとめ、振り返りの工夫） ○問題解決的な学習、探究的な学習 の重視 ○教科書の効果的な活用 ○ICTの効果的な活用
③家庭学習の工夫改善	○児童アンケート 「学年×10分+10分」 90%以上 ○保護者アンケート 「子供は学年×10分+10分」 80%以上	○授業と連動した家庭学習の重視 ○予習型家庭学習の推進 （復習70%以下、予習30%以上） ○生活リズムチェックシートの活用 ○読書発表会の充実と読書の記録の 見える化 ○家庭との連携・協働の推進 （家庭学習強調週間実施の工夫）

【重点取組事項3】 「強い心と体を目指し、進んできたえる子の育成」

重点取組事項3	強い心と体を目指し、進んできたえる子の育成	
成果目標	①新体力テスト 総合評価B以上 100%	
項目	達成基準	具体的な方策
①体力の向上 【最重点】	○新体力テスト 最重点項目で全国平均以上 (20mシャトルラン)	○朝運動の継続と工夫 (90秒間縄跳び、3分間走) ○新体力テストの複数回実施 ○新体力テストの種目を取り入れた 準備運動の実施
②食育の充実	○児童アンケート 「バランスよく食べる」 90%以上 「姿勢よく食べる」 90%以上	○栄養教育を重視した食育指導 (栄養教諭との連携) (家庭科との横断的な指導) ○食事のマナーの定着
③保健指導の充実	○児童アンケート 「TV+ゲームは2時間以内」 90%以上 ○保護者アンケート 「子供はTV+ゲーム2時間」 80%以上	○メディア時間の自己コントロール できるような働きかけの工夫 ○生活リズムチェックシートの効果 的な活用 (キャリアパスポート) ○家庭との連携強化

【重点取組事項4】 「地域との連携を図った教育活動の充実」

重点取組事項4	地域との連携を図った教育活動の充実	
成果目標	①保護者アンケート「学校は地域と連携をとっている」 90%以上	
項目	達成基準	具体的な方策
①地域との連携、交流	○保護者アンケート 「学校は方針を伝えている」 100% 「学習の様子を伝えている」 100% 「先生は地域の活動に協力的」 100%	○地域をテーマにした探究的な学習 ○地域行事への積極的な参加 (静狩例大祭、地域運動会等) ○パークゴルフでの地域交流 ○高齢者福祉施設訪問(慈恵園) ○地域と連携を図った安全教室、防 犯・防災訓練の実施
②小中高の連携、交流	○保護者アンケート 「学校は関係機関と連携」 90%以上	○小中高、関係機関との連携 (合同行事、交流学习) ○小中高連携協議会、町研、CS等 と連携